

## JRCA 2012年第8回理事会 議事録

2012年11月13日(火) / 文京シビックセンター アカデミー文京

出席者：長瀬、中原、勝田、佐藤、奥村、染宮、中島、河野、石城、斉藤、松井、中村、小坂、大貫、富田、多比羅、伊藤

### 1：第8戦ハイランド&第9戦新城ラリーの報告：かかわった理事全員

両ラリーに限ったことではないが、計時の正確さを求める声があった。特にターマックではコンマ差の争いになってきており、SSのフィニッシュコントロールにおいて、選手の表示タイムとオフィシャルのタイムが食い違うケースが過去何回か見受けられており、計測機器の調整等も含め、主催者部会で徹底をすることとなった。

### 2：雑誌「道路」の原稿掲載報告 事務局

第5回理事会にて承認した雑誌「道路」への執筆について、同10月号に無事掲載された報告が事務局より行われた。

### 3：全日本ラリーにおける献血について 足立理事(書面にて)

足立理事の尽力により、新城ラリーとモータースポーツジャパンにおいて献血が行われた。その報告が足立理事より書面で行われた。献血は社会的に大変重要な行為であり、新城とモータースポーツジャパンでは、開催地域の赤十字社より、感謝の言葉をいただいた。今後、献血が行えるラリーの数を増やしていくための土壌作りを推進していくことが、ラリーの社会貢献につながるため、来年以降も、献血を行うラリーを増やしていくよう努力することとなった。

また、モントレイと新城において、主催者の協力の下、選手部会を中心に行った救命救急講習会の報告が、足立理事より書面にて行われた。同講習会は今後とも続けていく必要があり、カリキュラムの組み方をはじめ、工夫を重ねると同時に、同講習会を開催できるラリーの数を増やしていくよう、努力することとなった。

### 4：デッドストック在庫の処理について 事務局

(株)キャロッセのご協力により、JRCAの資材を同社に保管していただい

いるが、資材のなかに今後使わないものがいくつかあり、その処分について事務局より廃棄の提案が行われ、承認された。

#### 5：ハンスについて 中村・FS 部会事務局

スーパー耐久レースにおいて、2013年よりHANSの装着が義務付けられることとなった。これを受けて中村・FS 部会事務局より、国内ラリーにおいて何らかの対応をするべきではないかとの提案が行われた。協議の結果、JRCAとしてHANSに関する啓蒙活動を行っていくこととなり、具体的な啓蒙方法を継続審議することとなった。

#### 6：2014年でのラリー車両規定について。長瀬会長

国内のラリー車両規定は、現状ではグループN規定に準じている。しかし、今後FIAのルールからN規定が無くなってしまおうという報告が長瀬会長から行われた。JRCAとしての対応は今のところできないが、共通認識として持つておくべきということになった。

#### 7：グラベルラリーのSSスタート環境について。長瀬会長

同じステージを数回使う設定が多いが、グラベルラリーではSSスタート場所が掘れるケースが目につく。後半ゼッケンの小排気量車にとって、深いワダチからスタートしていくことになる。あまりに深く掘れてしまう場合、路面の補修をなんとか行えないものだろうか、長瀬会長より提案が行われた。補修するかどうか、補修するとすればどのように行うのか、主催者部会で検討することとなった。

#### 8：JRCA アワードの選定

今年度のJRCAアワードの選定が行われた。その結果、川名賢／小坂典嵩組とGAZOO Racingに贈られることとなった。

#### 9：その他

勝田・主催者部会長より、全日本選手権の総開催数と開催間隔について質問があった。回答はおおむね次のとおり。

- ・月1回の開催

- ・ 2週間間隔の開催は厳しい
- ・ 年間多くて9戦。それも月1回ペースという前提

中村・FS部会事務局より、以前より提案していたチームズ・カップに関する調査状況報告が行われ、今年度の全リザルトから、シミュレーションを行うこととなった。

JRCA Video制作担当の染宮会員より、データ収集方法の改善が提案された。収集はラリーの現場で行わなければならない、選手も担当も時間がないなかでの作業となる。その作業スペースを確保することはできないかとの提案を受け、来年度に向けて検討することとなった。

また、iPHONEによるラリー車両移動のモニタリングを一部選手の協力を得て行っているが、さらなる効果的な利用方法を検討していくこととなった。

齊藤監査より、セレモニアルフィニッシュは全日本ラリー全イベントで確実に行ってもらえないかとの提案があった。また、全日本ラリーにおいて、もっと地元の新聞社や雑誌等に告知を行えないものかとの質問があった。これは現在行っている共同記者会見の意義をさらに深めるためのもので、主催者部会で調査、検討していくこととなった。

10：次回会議予定

12月17日（月）16時より、文京シビックセンター内の会議室にて開催することとなった。